

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2795800131		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ平野北 3階		
所在地	大阪府大阪市平野区平野北2丁目14番6号 オオクラ医療複合ビル		
自己評価作成日	平成23年1月13日	評価結果市町村受理日	平成23年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2795800131&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様にとって、もうひとつの我が家と思って頂ける様に、温かい雰囲気作りを心がけています。いろいろなレクリエーションを考え、利用者様が楽しく過ごして頂ける様に、心がけています。職員で、利用者様の好みをとりいれた献立を考え、調理しています。2ユニット合同の(バーベキュー・カラオケ・バイキング)等、楽しく過ごして頂ける行事作りを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1階には提携医である医院、2階には法人のデイサービスが併設され、3、4階に当該ホームがあります。併設のデイサービスと協力してニチイ祭を開催し、フリーマーケットやボランティアによるよさこい踊りを楽しみに地域の方に来てもらっています。小学校で行われる金魚すくいに利用者と職員が参加し、地域との密接な関係が築かれています。1階の提携医は週3回の往診、24時間の連絡体制が整えられ、更に独自の受診記録ノートが作られ職員と共有が出来る安心な医療体制がなされています。多くの職員が出席できるようフトを調整して会議を行い、個々の利用者の人生と暮らしを大切に支援し、一緒に作る暖かい家を目指して話し合いを重ねています。また、職員間の連携が良く、楽しみごとを増やしていけるように取り組んでいるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、法人の社是・経営理念の唱和をしています。	法人の社是、経営理念があり、事務所に掲示し毎日唱和しています。我が家のように共に仲良く生活できるよう支援することを心がけ、目標を決めて実践するように取り組んでいます。毎月の会議で振り返り、翌月の取り組みに繋げています。	法人の理念を基に、ホームの思いを言葉にして、地域密着型サービスとしての独自の理念を作られてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のふれあい喫茶への参加、また、事業所のニチイ祭り・消防訓練などに 地域の方にも、参加して頂いています。	自治会に加入し、地域ネットワークのふれあい喫茶に出かけたり、祭りの時にはお神輿を担いでホーム前に来てもらっています。また、ホームの祭りに地域の方に来てもらい、交流が図られています。小学校に車椅子の使い方の説明に行くこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町会長、地域ネットワーク、地域包括支援センター方々と会議等で話し合いをしています。 地域の人々に向けての薬の勉強会の参加への 声かけも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、自治会長・女性部長・地域ネットワーク委員会・地域包括の方々の参加にて、運営状況や行事報告をして、要望・助言等を頂きサービスに活かしています。	運営推進会議は自治会長、女性部長、地域ネットワーク委員、地域包括支援センター職員の出席のもと2ヶ月に1回開催しています。運営状況や行事報告、要望や意見を運営に繋げています。日程等が合わないこともあり、家族の参加が見られていない状況です。	運営推進会議のメンバーや家族多く来られるような行事の日を選んで運営推進会議を開催し、一緒に運営の方針等を話し合われる機会とされては如何でしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護者の利用者も多く住まわれているので、計画作成書を市のケースワーカーに提出し、入居者様のケアサービスの取り組みを伝えている。 市職員の訪問調査に施設へ(生活保護者)来られる。	運営推進会議の会議録は1年間まとめてニチイから、市の担当者に報告しています。生活保護に関する事など、介護保険申請時にケースワーカーとの連絡を密に取り、何でも相談に乗ってもらい教えてもらう関係が築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関には鍵をかけず、ドアを開けるとセンサーでオルゴール音が鳴るように設定、日曜日には、近隣への散歩に出かける様にしています。	入職時研修やホームでの勉強会で身体拘束をしないケアについて学んでいます。ホーム入り口やエレベーターにも施錠はせず、センサーを設置し、利用者が外に出たい時には一緒に出かけるようにしています。ペットの柵がどのように拘束に繋がるのかなど、具体例を挙げて職員で話し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々利用者様の変化に気を配り、見過ごされる事がないように注意を払い、職員共々虐待防止に努めています。また、事業所のマニュアル資料を基に、虐待防止のための勉強会をしています。		

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用されているお客様もおられ、支援しています、今後も必要性があれば関係者と話し合い支援していければと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様、家族様に納得して頂けるように説明を行い、また、改定等の際には家族会を開催、理解・納得して頂けるように図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	弊社では、年1回家族様へのアンケートを行っており、結果等を踏まえ改善すべき要所があれば職員とフロア会議で話し合い改善に、取り組んでいます。	法人からの家族アンケートを実施しています。また、面会の時に家族に状態を報告し意見や要望を聞いています。出された意見はホーム内で検討し、改善策を伝えるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議等での運営に関する内容・結果を、職員会議で説明・報告し、職員の意見・提案を聞く機会を設けています。	フロア会議が月1回、カンファレンスが月に2回あり、出された意見や要望は、ホーム内の支援に活かされ、内容によっては管理者会議に吸い上げられています。また職員全員が参加し思いが伝えられるように、シフトの調整を行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組合があり職場環境・条件の整備に努めている。弊社ではキャリアアップ制度を設けており、職員個々に対してやりがいや、向上心を持って頂ける様に、面談・試験などを受けて頂き自給アップ、スキルアップに繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修なども職員の要望により参加出来る様にシフト調整をしている。事業所内でも、マニュアル資料を基準に講習会を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	平野区のグループホーム連絡会に所属月1回の連絡会に参加、意見交換や各ホームでの空き情報共有し、研修会の開催、職員交えての交流の場となっている。また、連絡網を作成各ホームでの災害時の助け合いに備えている。		

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様の気持ちを酌み、お客様の言葉に耳を傾け安心して暮らして頂ける様に職員共々より良い関係作りが出来るように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂ける生活が送れるように、お客様・家族様の不安を取り除けるよう話し合いの場を持ち良い関係作り努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問・面談時に、お客様・家族様が何を必要とされているのか現在の状況をお聞きし、見極め、他のサービスにも繋げれる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に食事作り、四季折々の物作りなど共に過ごす時間を共有し、和気藹々と家庭的な雰囲気を作っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者様・家族様との良い関係が保てるように日々努力し、耳を傾け良い関係が保てるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいだった方の利用者様も多いので、馴染みの理髪店やスーパーなども職員と一緒に出掛けたりとしています。	ふれあい喫茶に行く途中、なじみのスーパーに買物に行ったり、今まで利用していた理髪店に職員と一緒に出かけます。友達に面会に来てもらったり、電話で話をしてもらう等、友達関係が途切れないよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで楽しんで頂ける様な、レクリエーションを多く取り入れ、利用者様同士が仲良く関わり合える時間を持てる様に支援しています。		

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、家族様の了解を得、病院お見舞いや、これまでの関係性を断ち切ることなく必要に応じて相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様のご希望に添えるように努め、困難な場合は家族様に協力して頂き、ご本人様にとって良い結果が出せるように努めています。	入居時に家族に分かる範囲でセンター方式のアセスメント用紙に生活歴や好みなどを記入してもらい、思いの把握に繋げています。一緒に生活する中で利用者の希望や思いを感じとった事を「気付きノート」に記入して職員同士が共有するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様のこれまでの生活歴、暮らし方について、家族様には入居前にセンター方式で分かる範囲での記載の協力をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり一日の過ごし方も違うので、その人らしい過ごし方に担った暮らし方が出来る様に支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なケア会議(カンファレンス)を行い、話し合い・意見を出し合っています、場合に依っては家族様・主治医との話し合いの場をもち、現状に即した介護計画を作成しています。	家族や主治医、看護師の意見を聞いておき、計画作成担当者や利用者の担当職員を中心にカンファレンスを行い介護計画を作成しています。3ヶ月毎にモニタリングや評価を行い、更新に繋げています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などは、個別記録に記載、状況の変化・服薬の変更などは、日々の記録に記載し申し送り等で伝え共有し、介護計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に対してカンファレンス(会議)等を行い、サービスに取り組む様に支援しています。		

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の趣味や興味の持てる事に対して、楽しみながら本人の心身の力が発揮出来るよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所1階に、提携医が開業しており毎朝週3回の往診があり医師との受診記録も作成職員も共有、日々利用者様の健康状態を書き込むようにしています。週1回の訪問歯科、訪問マッサージを利用しています。	入居時に以前からのかかりつけ医の継続が可能であることを説明しています。1階の提携医により週に3回の往診があり、受診記録を職員と共有しています。提携医による月1回の採血検査があり健康管理がなされています。また、提携医及び看護師には夜間にも対応してもらえる様にし、体制を整えています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の看護師が来られ利用者様の血圧状態などを記録、把握されている。現在、医療連携加算導入を計画しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、早期退院出来る様に病院関係者との情報交換、退院後のことなど相談に努めています。また、病院関係(ソーシャルワーカー)との介護支援連携に協力しあえたらと思っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、提携医・家族様との話し合いを行い、事業所で出来ることを十分に説明させて頂き、職員と共に共有し支援に取り組んでいます。	重度化した場合、ホームで出来る事、出来ない事の指針を示し、終末期に近づく中、家族や医師との話し合いを繰り返し、職員とケアの方向性を共有して、ホームが一体になってチーム体制で支援をします。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網・緊急対応マニュアルにて対応出来る様にし、また、提携医との24時間連絡出来る様に支援しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設のデイサービスと自主訓練を行っており、地域の方にも参加して頂き、消火器の使い方の訓練も利用者様・職員・地域の方と実践させて頂きました。今後も地域との協力体制を築いていきたいと思っています。	年2回消防署立会いのもと、併設のデイサービスと一緒に消火訓練をしています。自治会長の発信で地域の方にも来て貰い、利用者、職員で消火器の使い方等の実践をしています。	夜間想定訓練が未だ行えていないため、今後、具体的な見守りや、誘導路や担当を決める事等、消防署に相談しながら、夜間を想定した訓練の実施を期待します。

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の人格を尊重し、お手伝いして下さる事に対しては労いの言葉かけ、誇りやプライバシーを損ねない対応に心がけています。	採用時法人での接遇研修を受けて理解しています。馴染みの関係ができて「ちゃん付けした呼び方をしない」など利用者の尊厳が守られるよう注意しています。堅苦しい敬語ではなく親しみのある言葉を掛ける様、職員同士話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との時間を大切にし、ご本人の思いや希望に対する表現を見逃すことのないように、自由に表現できるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様ひとり一人の体調や、ペースに合わせ、無理じいはせず出来るだけ希望に添える様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望で定期的に近隣の理髪店や美容室に出かけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様との食事作りや、食べたい物などをお聞きしメニューに取り入れ献立を立てています。	メニューは1週間ごとに食べたい物を利用者から聞き作成しています。出来る人には野菜の下拵えから配膳もしてもらっています。テレビを消して好きな音楽を流し会話をしながら楽しい食事時間になるよう支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量・水分量の記載、ひとり一人の状態に応じ、きざみ食・ミキサー食・ペルパー食にて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1度の訪問歯科、毎食後のうがい・歯磨き、義歯洗浄などの支援をしています。		

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗があってもすぐにおむつの使用をするのではなく、排泄チェック表を利用し、時間帯に応じたトイレへの声かけ・誘導を行い自立に向けた支援をしています。	排泄チェック表を使い個々の利用者のパターンを把握して誘導しています。おむつをしていた人がパットか布のパンツに変えトイレで排泄できるようになった方もいます。尿量が多く間に合わない人にはパットの種類を換える工夫をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に対して、なるべく薬にたよる事なく、食事内容に工夫し、フルーツ・サラダ・乳製品を摂りいれています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように、入浴剤や季節に応じたゆず湯や菖蒲湯を使用しゆっくり入浴を楽しめるように支援しています。また、入浴拒否のみられる利用者様がいらっしゃれば、気持ち良く入浴出来る様に工夫し、支援しています。	週に3回13時30分～16時頃まで、入浴できるように支援しています。また希望があれば毎日でも入ることができ、順番も意向を聞きながら決めていきます。状態にあわせ足浴だけにしたり、入浴拒否傾向の人にはタイミングや声かけを工夫して入ってもらう様にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、フロアにてリクリエーション等楽しく過ごして頂き、その時々利用者様の状況に応じて、お昼寝など休息して頂いたり支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局との連携もあり、薬剤師による薬の目的・副作用に対する講習会もして頂き、職員共々服薬事故のないように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人、その人にあった楽しみごと・役割・出来る事を活かし、張りのある生活・日々をおくって頂けるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日曜日や天気の良い日には、近隣の公園・神社など散歩にでかけます。また、併設のデイサービスのベランダを借りバーベキュー・室内でのカラオケなど気分転換できる様にしています。	初詣に出かけたり、天気のよい日には近所にある神社や公園や地域のふれあい喫茶店に出かけます。季節に合わせて、初詣や花見にも出かけています。外気に触れることを大切にしており、気分転換になるよう外出を支援しています。	

ニチイのほほえみ平野北(3階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様・家族様の希望により購入したい物があれば、職員と一緒にでかけ購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば、電話をしたり、手紙のやり取りが出来る様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様に、その季節に応じて利用者様と共に作った飾りつけや、ゆったりと過ごして頂ける様にソファもあり、居心地良く過ごして頂くように工夫しています。	各ユニットの入り口には観葉植物やぬいぐるみを置き迎えてくれます。様々な行事を楽しんでいる利用者の写真が飾られているリビング、床の間に花が飾られている和室、ゆっくりと寛げる空間になっています。対面式になっているキッチンからは美味しい匂いがし、生活感が感じられています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、和室もあり、フロアにはソファも置かれ、自由にいつでも、居心地良く過ごせるように工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様本人が以前のお住まいから慣れ親しんだ家具、使い慣れた物を使用、利用者様・家族様と相談し以前とかわらず生活して頂ける様に工夫しています。	利用者の笑顔の大きな写真が表札の代わりに置かれ、自分の居室が分かるよう工夫されています。家具などは慣れ親しんだ物を持ち込んでもらっています。仏壇もあります。家での生活により近付けるように、居心地よく配置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事作りや・洗濯物干し・洗濯物たたみなど、ひとり一人出来ることを活かして、自立した生活が送れるように支援しています。		